

研究・調査報告書

報告書番号	担当
465	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and acute ischemic stroke onset: the stroke onset study. 飲酒と急性虚血性脳卒中発症: 脳卒中発症研究	
執筆者	
Mostofsky E, Burger MR, Schlaug G, Mukamal KJ, Rosamond WD, Mittleman MA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke. 2010 Sep;41(9):1845-9. Epub 2010 Jul 15.	
キーワード	
アルコール、症例クロスオーバー、脳血管障害、疫学、脳卒中	
要 旨	
背景と目的: 習慣的な多量飲酒は虚血性脳卒中のリスクを増すことが示されている。一方、少量から中等量の習慣的飲酒はそのリスクを減らす可能性がある。しかしながら、一過性の飲酒が虚血性脳卒中発症と関連しているかどうかは明らかではない。 本研究では、クロスオーバーアプローチにより、飲酒が急性虚血性脳卒中リスクと関連しているかを検証した。また飲酒と症状発現との間の時間の長さを検証し、リスクがアルコールの種類によって異なるかどうかをについて検討した。	
方法: 多施設共同研究において、2001年1月～2006年11月(中央値で脳卒中後3日後)に、390名の患者(男性209名、女性181名)のインタビュー調査を行った。脳卒中症状発現前の時間における飲酒量を、発症前1年間の通常の飲酒頻度に基づいて算出された期待飲酒量と比較した。	
結果: 390名の患者のうち、248名(64%)が脳卒中発症の前年の、104名が発症24時間以内の、14名が発症1時間以内の飲酒を報告した。 飲酒後の時間帯に脳卒中を発症する相対リスクは2.3(95%信頼区間、1.4-4.0;P=0.002)であった。相対リスクはアルコールの種類にかかわらず、また他の潜在的なトリガーの暴露を受けていない対象においても同様であった。	
結論: 脳卒中発症のリスクは、アルコール摂取直後の時間帯に一過性に上昇していた。	